

# カスミソウ

消費のニーズに沿う形で小輪から大輪までさまざまな品種がある。花持ちは改善されてきており、染色での流通も一般化している。テーブル花や花束、葬儀などに多く用いられる反面、アレンジなどへの利用は少ない。

学名 *Gypsophila paniculata* ナデシコ科  
和名 宿根霞草 (シュッコンカスミソウ)  
原産地 地中海沿岸、中央アジア、シベリア

特性・・・耐寒・耐暑性に優れた宿根草。休眠性があり、冬の低温で打破する  
開花特性・・・高温長日  
開花期・・・季咲きで6月～7月  
栽培環境・・・石灰質土壌を好む。

1坪あたりの植え付け本数・・・約9～14本/坪  
1株あたりの採花本・・・4～12本  
価格・・・カタログ参照



## 定植

定植時期・・・周年 (主に3～10月)  
定植間隔・・・株間条間40～45cmの2条植え  
または株間条間30cmの1条植え  
畝・・・80cm  
ネット・・・30cm角1～2段  
マルチ・・・白、または反射マルチ

## 肥料

元肥・・・N-P-K=1.5-1.5-1.5kg/a  
pH・・・6.0～6.5 (石灰により調整)  
追肥・・・N-P-K= - - kg/a

## 作型

- ◆秋切り栽培・・・6月上旬定植、9月出荷 (その後、無加温ハウスで翌6月出荷さらに10月出荷も品種により可能)
- ◆年内切り栽培・・・9月定植、12月出荷 (加温10℃、翌5月出荷さらに9月出荷)
- ◆アルタイル暖地3回切り・・・8月定植、11月切り、ハウス蒸し込みで3月切り、6月切り

## 病虫害

ウドンコ病  
病徴：他の作物と同様に白いウドン粉をまぶしたような病徴。発生した部分が茶褐色に変色し、商品価値が低下する。

感染：20℃以上、湿度が高い条件で発生。初期病斑発生から圃場蔓延までの期間が短い。  
対応：発生圃場では収穫後の残さを取り除く。

## 出荷

2.5～3段開花で採花 (出荷市場に確認して下さい)  
クリザールカスミ、またはハイフローラカスミで処理後、出荷。

## 管理

生育適温は昼温25℃、夜温10℃前後  
奇形花は別名ダンゴ花とも呼ばれ、花弁数が多く通常の花よりも大きくなり、花色も黄色くなる場合がある。  
夜温が重要で、出蕾期の前後10日間の時期に、温度が22～23℃以上になると発生しやすくなる。  
黒花は、開花期に長雨が続くとハウス内湿度が上がり発生しやすくなる。  
日長条件は相対的長日高温で、冬期間の栽培には早朝の明期延長、夜間の光中断が有効。通常は、1日3～4時間、9月下旬～3月中旬まで行う。  
水分管理は、耐湿性が弱いので生育後半に灌水を控え硬く作る。  
灌水を控えることにより茎が堅く、花持ちのよい切り花が採花可能。